

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	百葉の会 グループホーム ゆひもや
(ユニット名)	3階
所在地 (県・市町村名)	静岡県清水区由比427-14
記入者名 (管理者)	稲葉昭江 (管理者:山内博美)
記入日	平成 21 年 5 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念、グループホーム独自の理念ができています。	<input type="radio"/> グループホーム理念「嬉しいことは倍に、悲しいことは半分に、いつも私達がそばにいるからだいじょうぶ。」
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時や会議の前に唱和し、目標を具体化している。職員も理念を理解する事でお客様との気持ちの共有に取り組んでいる。	<input type="radio"/> 10の行動指針の中から毎日1つを選び行動目標として業務にあたっている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域運営推進会議を開催し、地域の方に啓発している。施設行事には、近隣の方の参加を呼びかけたり、ゆひもや便りの配布を行っている。ホーム内に明示しパンフレットに理念を表示している。	<input type="radio"/> 2ヶ月に1回、地域運営推進会議を開催し、地域の方にもゆひもやの運営方針、活動内容を伝えて行く為にも、有意義な会議として継続して行きたいと思っています。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方へ行事等の呼び掛けを行い、ボランティアや、学校などの協力を得ている。避難訓練にも近隣の人達にも参加して頂き協力を得ている。地域の行事に参加し地域の中に溶け込むように心掛けている。	<input type="radio"/> 地域のお客様も増えて来ているので、気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気作りをして行きたいと思っています。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事には、お客様と一緒に参加し楽しむ事ができています。老人会への参加は、できていない。	<input type="radio"/> 昨年度の由比町福祉課主催のふれあい祭りに、ゆひもやでも出店し参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町の老人保健事業の講師を務めたり、町のケア会議に参加し、予防介護に取り組んでいる。	○	地域に貢献できる様に老人保健事業などに取り組んで行きたい。老人保健事業では、「認知症の方と上手につき合うには」で講師を務めている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果をホーム会議で話し合い、サービスの改善に活かすように努力している。	○	こやまケア独自のグループホームのケア会議が有りその都度話し合いを行っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、お客様の暮らしや行事の報告を行い、ホームへの理解を得るように心掛けている。参加者からは、貴重な意見や協力を頂き、サービスの向上に生かすように努めている。	○	由比災害ボランティアコーディネーターにも参加して頂いている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町のケア会議、介護保険会議に参加し、連携を取っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修に職員が必ず参加し、全体会議の中で研修の報告を行っている。研修報告について話し合い自分を振り返る事で防止につとめている。	○	全体の勉強会でも課題として再度確認している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	御客様の健康状態をご家族が把握できる様にバイタル表を個々に送付している。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	家族会では家族だけで意見交換をして頂いている。出た意見は家族の方にまとめて頂き報告して頂きサービスの向上に努めている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	運営会議には、一般の職員(リーダー)も参加している。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	病院受診など対応している。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	職員の写真を掲示し、御客様や家族の方に安心して頂ける様にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は年1回は、外部研修を受ける事が施設目標としている。又施設内研修を月1回担当の職員により課題を決めて行っている。資格試験受験者には、講師による対策講座も開かれている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流する機会はなかなか持つ事ができないが、同法人のケア会議などを行いサービスの向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年3日のリフレッシュ休暇がある。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上期、下期に各職員が2個の目標を設定し日々努力している。	○ 目標や成果をホーム会議で発表し全員が把握している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人と面接し、話しを聞く機会を作っている。自ら訴える事の出来ない御客様に対しては、信頼関係を築く所から始め本人の気持を読み取れるように努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家族と面談し、納得行くまで話し合いを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始時は、ホームの雰囲気にまず慣れて頂ける様に家族と相談しながら工夫している。	○	入居前にDSを利用されていた御客様は、併設しているDSを利用しながら徐々に馴染む事ができる様に対応している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に共感する大切さを職員は理解し、共に過ごし支え合い、今日の介護に悔いの残らないように努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ゆひもやの行事には家族にも参加して頂き、一緒に楽しむ事ができています。来訪時には御客様の様子を報告し、家族と共に支える姿勢を取っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族同士でゆっくり過ごして頂けるように居室・居間は自由に使って頂き、来やすい雰囲気作りを行っている。家族には、常に声を掛けるように心掛けている。	○	年1回家族旅行を企画し楽しい1日を過ごして頂いています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人への手紙や電話は、希望に合わせてプライバシーに配慮しつつ対応している。地域の祭りや、行事に参加する事で馴染みの人達とも楽しく過ごす事ができる様に配慮している。	○	御客様の希望で故郷の祭りに職員と一緒に参加し親戚の人達とも楽しむ事ができました。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	御客様同士の関係を壊さないように配慮し互いに助け合い、コミュニケーションが取れるようにさりげなくサポートしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も本人に関わる保険医療、福祉関係者と情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時や家族会などで家族の意見を聞き、普段の生活を通して御客様の要望を伺うようにしている。困難な場合は、安全面を考慮して楽しみを持って生活できる様に対応している。	○	御客様一人ひとりに担当の職員がおり、把握するように努めている。情報はホーム会議で報告し、職員全員が共有している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを使用して把握に努めたり、面会時や家族会などで家族から話を聞くように心掛けている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方や心身状態などは、センター方式の用紙に記入する事で把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が気付いた事や家族と話した事などをホーム会議で話し合いモニタリングを行いプランに生かしている。	○	月2回行われるホーム会議でサービス担当者会議を行い見直しをしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間で見直しを行い、状態の変化があった時は、サービス担当者会議を開き見直しを行っている。	○	生活記録を介護計画が把握できる様に作成し、常に実践されているか把握できるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御客様一人ひとりの介護計画が把握できる様に生活記録が作成されてお常々実践されているか確認する事ができる。御客様の様子や会話など具体的に記録するように意識付けしている。	○	1ヶ月ごとに実践の結果が把握できる様に生活記録が作成されている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているDSの御客様との交流を図り合同行事を行っている。又御客様の希望によりDSのレグに参加し楽しむ事ができる様にその都度対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員は地域運営推進会議に参加して頂き理解を得ている。地域のボランティアや中学校の生徒の協力で施設行事を盛り上げて頂いています。消防署や近隣の住民の協力を得て防災訓練も行っている。	○	地域教育機関の協力を得て、小中学校などの生徒の慰問があり、地域の子供達と触れ合う機会を持つ事ができている。御客様もとても楽しみにされています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの介護専門委員に、運営推進会議に参加して頂き、情報交換し、協力を得ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御客様一人ひとりの希望に合わせて医療機関を決めている。協力医を確保し、2週間に1回の定期的な往診を受けている御客様もいます。	○	往診時には、看護師が対応し医師と連携を取っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	お客様の看取りを行い家族からも感謝の言葉を頂いています。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	心掛けているが細かな所までは配慮できていない事もある。個人情報の取り扱いには、注意するように徹底している。	○ 個人情報の取り扱いについては、施設で勉強会を行い徹底している。ホーム会議でもさらに細かく話し合い確認している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の状態にあわせた対応を心掛け、さり気ない言葉掛けや介助を行っているが、来ていない所もある。	○ 本人の希望で故郷のお祭りを職員や親戚の方達と一緒に楽しむ事ができました。本人の希望を担当の職員が聞きだし叶える事ができる様に他の職員も協力している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆとりを持った対応を心掛けているが、個々のケアという点では、まだ不十分である。	○ その人らしい生活の質を上げて行く事が課題である。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その場にあった衣類の選択ができる様に声を掛けている。美容院は本人の希望や、家族の希望に合わせて出張美容院を利用したり、家族と馴染みの美容院に行かれる方もいる。又、職員も本人の希望に合わせて対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好や誕生日、行事、季節に合わせて献立を立てるように心掛けている。体調に合わせて調理方法を工夫するなど配慮している。食事作りや片付けなど一緒に行うように努力しているが食事作りへの参加が少ない。	○ 食事委員が中心となり楽しみのある献立や、個々にあった食事など考えている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人からの訴えが少ないので以前に好んで召し上がっていた物などを職員の方から声を掛けて一緒に買い物に行く。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を記入し、本人に合わせた声掛けを行っている。オムツ・尿取りパットは、一人ひとりに合った使い分けをしている。	○	排泄委員が中心となりホーム会議で話し合い対応している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前には体調確認を行い、2日に1回は入浴出来るように声を掛けている毎日入浴されているお客様もいる。	○	入浴委員が中心となり入浴を楽しむ事ができる様に企画している。 菖蒲湯・バラ風呂・入浴剤を使用するなどしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間と日中の様子を申し送り確認し、一日の過ごし方を配慮している。随時お客様の様子を見ながら昼寝などの声掛けを行っている。	○	安心して休息できる様に横になる場所などその都度配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節を肌で感じて頂けるように行事や、外出の企画を立てて行っている。洗濯物をたたむ事や食器拭き・食事の盛り付けなど毎日行っているが、全てのお客様の力を活かす事が出来ていない。	○	今、できている事を続けて行き、何事もできないだろうと決め付けずに視点を変えて見つけて行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が金銭管理を行っているが、お金を持つ大切さは、理解している。支払いする時お金を渡して直接支払いをして頂くなど支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出はお客様の楽しみでもあるので、できる限り外出できるように支援している。(散歩・買い物・自宅)	○	ケアプランの中にもお取り入れてある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の行きたい場所を聞き出す事は難しいが、希望のある時は随時対応している。	○	家族旅行を企画したり、お客様の行きたいような所を職員が探してお連れしている。(海洋博物館・本栖湖の芝桜祭り)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて対応している。ホームに家族からの電話があった時など短い時間でも家族に了解を得て電話で話して頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室や居間など自由に使って頂き、来やすい雰囲気作りを行っている。	○	毎週来訪されるご家族もあり、職員も一緒に歌を唄ったり、簡単に体を動かすレグなどを行い楽しいひと時を過ごして頂けるように配慮している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、報告会をかねて勉強会を行っている。全ての職員が正しく理解し、拘束のないケアの実践に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員が見守りを行い、夜間のみ安全の為に玄関に鍵を掛けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にさり気なくお客様を見守る意識を持っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	随時ホーム会議で話し合い取り扱いを確認している。安全に生活ができる様に配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルは常に確認できる場所に掲示しており、勉強会も行っている。事故対策委員会を中心に1ヶ月毎に集計し会議で話し合い再発防止に努めている。事故があった時は、事故報告書を作成し、全職員が把握できる様に回覧している。	○	ひやりとした事を記録して、すぐに対応している。大きな事故にならなる前にくい止めるように努力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習1を全員の職員が終了し救命技能を有している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の住民の協力を得て一緒に参加して頂き、年2回訓練を行っている。家族用の緊急連絡網が作成されており家族の協力も得る事ができる。	○	地域の由比災害ボランティアコーディネーターと災害に対する打ち合わせを行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や面会時に随時説明し話し合っている。	○	家族会で特に夜勤体制の説明を行い理解を得ている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタルの確認を行い、異変の発見に努めている。又、看護師・主治医・家族と連絡を取り早期の対応に努めている。	○	職員間で申し送りを行い、その人に合った必要な記録を行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御客様の服薬している薬を分かりやすい様に表にまとめて確認し易い様にしている。服薬はその日の担当の職員が決めてあり把握し対応している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	下剤を服薬しなくても排泄できる工夫をしている。水分摂取量や、排泄を記録して、把握し対応している。	○	業務に入る前に必ずバイタル表を確認している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声を掛けて出来る所まで自分で行って頂き最後は職員が確認しているが完全とまでは行かない。歯科医との連携は取れている。	○	口腔ケアの勉強会を開く。又は、研修に参加し習得して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力摂取出来る様に配慮し、食事の摂取量や水分補給量は、記録し随時対応している。	○	食事委員が中心となり、お客様に合わせた調理法や、盛り付け方、食器などに配慮している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マにアルが作成されている。又、感染症対策委員が研修に参加し研修報告を兼ねて勉強会を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が毎日最後に調理用具の消毒を行っている。備品係が食材の賞味期限の確認を行っている。	○	食中毒の予防の為買い物にはクーラーバックを使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や飾り物を置き、手作りの座布団も置いてある。腰掛けて会話する場所も設けてある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家庭的な雰囲気を作るように心掛けている。浴室やトイレなどはまだ不十分ですが落ち着いて生活して頂けるように光や音については気配りしている。	○	居間の窓にブラインドを設置し光の入り具合を微量に調節している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や居間は、自由に使って頂き、さり気ない見守りを心掛けています。また、廊下などに椅子を置いてゆっくりと会話を楽しんで頂けるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来て頂く様に声を掛けているが使い慣れた物が少なくその人らしさがでていない。	○	家族の協力を得て、思い出の写真などを貼っているお客様もいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を確認しその都度調節している。毎日窓を開けて空気の入換えなども行っています。	○	居室はエアコンを利用しお客様一人ひとりに合わせて調節している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し安心して移動できる様に対応している。	○	身体機能に合わせて設備を工夫して行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の前には、表札やのれんを掛けて分りやすい様になっている。トイレ・浴室なども表示してある。さり気なくフォローし見守りしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは物干し場として利用したり、日光浴などして気分転換の場として利用している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

お客様の平均介護度も高くなり、状態も重度化してきています。今の状態を保って行くことが、どんなに大切な事なのか、職員もよく理解しています。ホームでも法人の研修や、部外研修・勉強会と職員のスキルアップを図る機会が設けています。研修や勉強会で学んだ事を生かし、今の状態がいつまでも保てるように努力して行きたいと思っております。